

初段審査学科試験問題

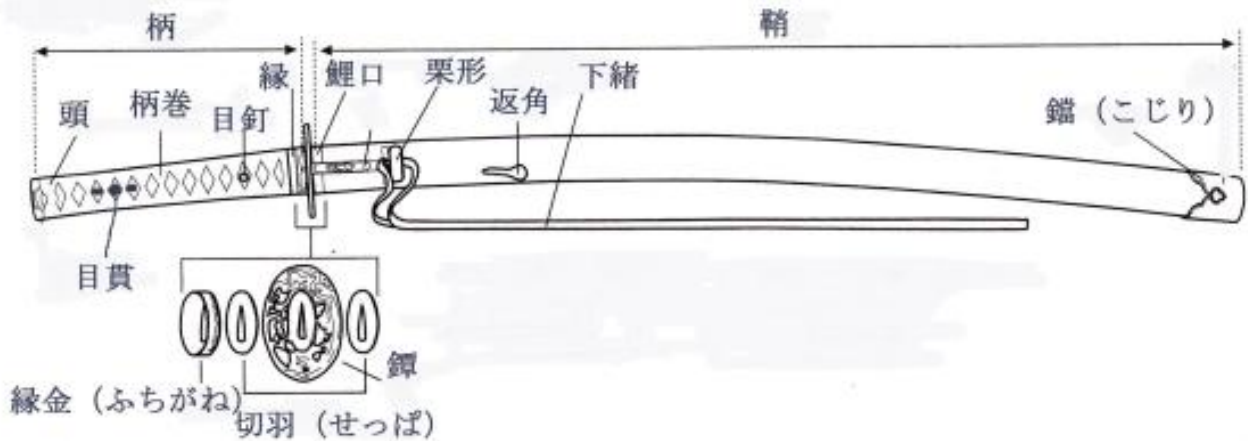
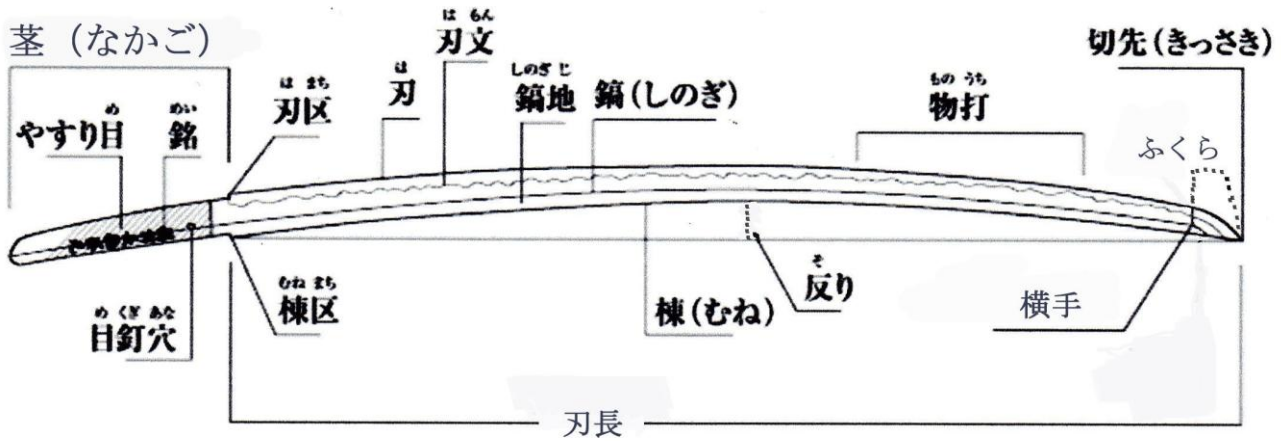
会員番号 _____ 氏名 _____

※次の設問に解答し、実技審査前に提出して下さい。

※記述問題は書籍・インターネット等を参考にしてかまいませんが、丸写しはいけません。

あくまでも自分の言葉にして手書きで記入すること。

(1) 図の中の () の中に刀の名称を書きなさい。



(2) 居合道を稽古するときの心構えについて五つ以上箇条書で述べなさい。

= 解答例 =

- 1 先生の教えを守り、礼儀正しく行う
- 2 常に基本を重んじて行う
- 3 研究と工夫を怠らない
- 4 技能とともに精神面の修養も行う
- 5 目釘をあらため、練習する場所を選ぶなど自他の安全に注意する
- 6 練習場(道場)、服装を常に清潔にするなど自他の健康に注意する

二段審査学科試験問題

会員番号_____ 氏名_____

※次の設問に解答し、実技審査前に提出して下さい。

※記述問題は書籍・インターネット等を参考にしてかまいませんが、丸写しはできません。

あくまでも自分の言葉にして手書きで記入すること。

(1) 無外流居合兵道の歴史について、簡潔に述べなさい。

=解答例=

無外流流祖「辻月丹」は慶安元年(1648年)近江甲賀郡(滋賀県)の郷士の次男として生まれ、十三歳で京都に道場を構える山口流剣術の門を叩き、皆伝を許された後、江戸麴町に道場を構えた。また、「剣禅一如」の道を目指し麻布の吸江寺において石潭禅師を師として参禅し、神州禅師より偈を得、流名を無外流とした。

その後無外流は、姫路藩剣術指南役高橋家により、併傳武術としての自鏡流居合(無外流居合)とともに継承されてきた。第十代高橋起太郎高運の弟子であった第十一代中川士龍申一は、無外流兵法と無外流居合を再編成し、体系立ててこれを『無外真傳無外流居合兵道』とした。

中川宗家は、晩年に至り六名の高弟に無外真傳の極意とともに『皆伝之巻』を与え後継者となし、現在は十六代宗家小西御佐一龍翁範士により伝承されている。

(2) 無外流以外の居合流派を5つ書きなさい。

=解答例=

長谷川英信流 夢双直伝英信流 夢想神伝流 関口流
伯耆流 田宮流 水鷗流 大森流

(3) 正しい正座の姿勢について述べなさい。

=解答例=

上体を正しく肩の力を落とし、肘は張らず、両手は指先を内へ向けて股の上におく。目は遠山の目付で前方を見る。両膝の開きは肩の中、腰は十分に伸ばし、臀部を両足の上に落ち着け、両足の親指は軽く重ねる。刀は右側に刃を内に向けて置く。下げ緒は束ねたまま、鍔は膝頭と一線にそろえ、柄が膝より前になるようにする。

参段審査学科試験問題

会員番号_____ 氏名_____

※次の設問に解答し、実技審査前に提出して下さい。

※記述問題は書籍・インターネット等を参考にしてかまいませんが、丸写しはできません。

あくまでも自分の言葉にして手書きで記入すること。

(1) 無外流居合 20 本、内伝 3 本、居合の形 5 本、脇差の形 5 本の名称を全て書きなさい。

【五用】 真連 左右捨 胸尽し

【五応】 円要 両車 野送り 玉光

【五箇】 水月 陰中陽 陽中陰 響き返し 破凶味

【走り懸り】 前腰 夢想返し 廻り懸り 右の敵 四方

【内伝】 三行一致 神門 万法帰一刀

【居合の形】 北斗 太白 稻妻 霞 流星

【脇差の形】 切留 突留 受流し 斬り上げ 位詰

(2) 残心について述べなさい。

= 解答例 =

仮想敵を倒したあとも相手に心を残し、もしもまた仮想敵が攻撃してくるような気配を発したら、ただちに倒せるように油断ない心をいう。

一動作ごとに気も心も充実させていることが大事である。切ったまま、打ったままといった、あとに心が残っていないのはいけない。残心はつねに心がけることであり、血振りから納刀し終えるまで、仮想敵に対する攻めの気持ちを崩さない心構えである。

四段審査学科試験問題

会員番号_____ 氏名_____

※次の設問に解答し、実技審査前に提出して下さい。

※記述問題は書籍・インターネット等を参考にしてかまいませんが、丸写しはできません。

あくまでも自分の言葉にして手書きで記入すること。

(1) 居合道指導上の留意点を五つ以上箇条書で述べなさい。

=解答例=

- 一、正しい剣の理念を指導すること。
- 一、正しい礼法を指導すること。
- 一、安全面を指導すること。
- 一、正しい理合を指導すること。
- 一、正しい基本と理合にのっとった技を指導すること。

(2) 気剣体の一致について述べなさい。

=解答例=

気剣体一致の“気”は意志であり、心の判断によって活動を起こすもので心の動的な面である。“剣”は刀の動作、裁き方である。“体”は体裁き、姿勢、手の内、等の総合的な身体の動きのことである。これら三つが斬突のときに一致して、少しも崩れない状態をいう。これらが一致することで、気にも剣にも体にも気力が充実し、精巧な技を抜くことができるのである。

五段審査学科試験問題

会員番号_____ 氏名_____

※次の設問に解答し、実技審査前に提出して下さい。

※記述問題は書籍・インターネット等を参考にしてかまいませんが、丸写しはいけません。

あくまでも自分の言葉にして手書きで記入すること。

(1) 中川士龍先生の居合の氣勢気韻について、「姿勢」「抜き付け」「斬り下げ」の三点について述べなさい。

姿勢は、端然として均整がとれ、前後左右いずれから見ても、ゆったりとした中に隙のない姿勢でなければならない。ちょうど富士山が東海に聳えているように、和やかな美しさを有していることである。他の高山に見られない気品があつて我等にせまるものがある。

斬り上げは、敵の右脇から左頸動脈に向かって斬る動作で、竜巻が大空に向かって巻き上がり、星辰を揺るがせて撒き散らす気持で斬り上げることが大切である。

斬り下げは、真っ直ぐに斬り下げる場合と、斜めに斬り下げる場合とあるが、いずれにしても飛瀑が天際から落ちて地軸を轟かす氣勢で振り下ろすことである。

(2) 気位について述べなさい。

=解答例=

気品ともいう。居合道ではこの気位が技の内容に大きくかかわっている。単に切ればいいというのではなく、その技から発せられる気位、気品というのが重要とされている。

居合道は仮想敵に対する技であるが、そのなかに心が存在していなければいけない。その心が気位といい、高段者になればなるほど心のあり方が重要視され、単なる刀法ではなくなる。

内からわき上がるような心のあり方がその技の内容を高め、より深いところへ登ることができるのである。